

自ら考える力を育てる「応答的保育」

－「移動概念」としての「育てる」 検証Ⅰ－

○大里美保子（春日市大和保育所）竹内里絵（光沢寺中井幼稚園）鹹味千寿子（福岡県和田幼稚園）
飯田恵津子（筑紫郡青葉保育園）宮原英種（第一経済大学）宮原和子（近畿大学九州短期大学）

本研究は、「育てる」を「移動概念」としてとらえ、思考を育てる「応答的保育」との関係を検証するものである。

検証Ⅰでは、【明瞭化】と《定着》、【解釈】と《深化》、【命令】と《柔軟》について報告する。

方法

保育場面における子ども（4歳1か月男児1名、3歳9か月女児1名、4歳5か月女児1名）計3名と保育者の対話を記録、分析した。

結果・考察

1、【明瞭化】と思考の《定着》の関係

《定着》とは「しっかり根づくこと」であり、子どもの思考が明確に根づくためには、保育者がことばを通してはっきり言い直したり、実態の認識を明確にする働きかけが大切である。そのような応答的対応が【明瞭化】である。

2、【解釈】と思考の《深化》の関係

思考を《深化》させるとは、思考を深めることである。子どもの思考を《深化》させるためには、子どもの発話の意味をしっかり理解し、その意味を「こういうことよね」といったことばで、子どもが言い表せなかった内容をはっきりとしたかたちで返して対応する。すなわち、保育者の【解釈】としての対応である。

3、【命令】と思考の《柔軟》の関係

保育者が子どもにいいつけるといった「命令」は、指導や服従につながるものであるが、その使い方によっては、子どもたちに考える機会を与え、思考を《柔軟》にすることへとつながっていくこともある。子どもたちに考える機会を与え、思考を《柔軟》にするような保育者の応答的対応が【命令】である。

具体的事例の検証

表1【明瞭化】と《定着》の関係

保育者	男児F（4歳1か月）
	Fもこれ食べたことある （保育者のお弁当箱の中身を指さして言う）
F君も食べたことあるの【くり返し】	うん
これアスパラガスっていうんだよ【明瞭化】	アスパラガス？
うん、そうよ、アスパラガス【くり返し】	F、アスパラガス食べたことある

うん、F君もアスパラガス食べたことあるんだよね【確認】

うん

（2～3分後）

F君、これなんていうの？

【Yes-No質問】

アスパラガス

そうそう、そうよね。アスパラガスよね【肯定】

（その2か月後）

一数人の子どもたちと野菜の話になったときー

そうそう、F君の好きな野菜

なんだった？【Wh質問】

Fの好きな野菜？

うん、F君の好きな緑色の野菜はなんだったっけ【示唆】

え～と、最初に何がつく？

最初はね、「あ」がつく野菜よ

【説明】

う～ん、ア、ス・・・

うんうん、そうそう【肯定】

それから？【示唆】

アスパラガス

そうそう、F君の好きな野菜はアスパラガスだったよね【確認】

Fが保育者の弁当の中をのぞき込んで、アスパラガスを指さして、自分も食べたことがあることを言ったところから対話が始まる。保育者は、まずFの発話を【くり返し】で受容し、次にFが「これ」と言ったものと「アスパラガス」という固有名詞が一致するように【明瞭化】で対応した。Fはすぐに「アスパラガス」ということばを使って「アスパラガス食べた」と応えている。さらにその2か月後、子どもたちと野菜の話になったことを機に【Wh質問】したところ、Fは「アスパラガス」ということばを使用して返答をした。これらのことからFは「アスパラガス」という語彙を《定着》させていると考えられる。Fは、保育者の【明瞭化】による対応で、定着していなかったものから《定着》へと思考を変化させたことがわかる。つまり、移動概念で説明できる事例である。

表2【解釈】と《深化》の関係

保育者	女児H（3歳9か月）
	昨日ね、からのえびのえびフライお手伝いした
へえ、すごいね【賞賛】お母さんのお手伝いしたの？【明瞭化】	

うん、からのえびむいた
からのえび？【くり返し】
ああ、海老の殻をむいたんだ
ね【解釈】

うん、えびのからむいた
そして、しっぽも取った
しっぽも取ったの。【くり返
し】お料理のお手伝いしたん
だね【補足】

うん。そして、ママがえ
びフライ作ったよ
よかったね。【感情移入】先
生も海老フライ好きだよ
【展開】

(その2週間後)
Hちゃんは、お家でどんなお
手伝いするの【Wh質問】

え〜とね、お洋服たたん
だり、お料理したりする
たくさんお手伝いするんだね
すごいね【賞賛】お料理の時
はどんなことするの？【Wh質
問】

え〜とね、お野菜切った
り、えびのからむいたり
する
わあ、野菜切ったり、海老の
殻むいたりするの【くり返し】

Hが「からのえび」と言ったことをすぐに訂正せず、
まず「へえすごいね」と【賞賛】で受容し、はっきりし
ない子どもの発話を【明瞭化】で明確にして返した。し
かし、Hが再度「からのえび」と発話したため、保育者
は【くり返し】で受容しながら子どもの発話を理解し、
【解釈】し、「えびのから」であるといった正しいかた
ちで言い換えて対応している。そこで、Hは次の発話で
「からのえび」と言っていたことを「えびのから」と言
い直した。さらに、その2週間後お手伝いの話からはじ
め、料理の手伝いについて具体的に質問した。ここでは
「えびのから」と適切に答え、2週間前に思考を《深化》
させ、その後正しく使用することができていることがう
かがえる。

最初の場面ではHは、「からのえび」と浅く思考して
いたものから、正しく「えび」の「から」であると、思
考をより《深化》させ、思考を移動させているというこ
とがいえ。

表3【命令】と《柔軟》の関係

保育者	女児M(4歳5か月)
	先生！こんな色になっ たよ(園庭で色水作り活動 をしている)
本当だ。きれいね【感情移 入】それ何色？【Wh質問】	むらさき
そうだね。きれいな紫色だね	

【感情移入】どのようにし
て作ったの【Wh質問】

まぜた
何色と何色を混ぜたの？
【Wh質問】

う〜ん、わからん
もう一回作ってみて【命令】
うん。これだったかな
(考えながら色を混ぜ合
わせている)
できた！同じのが出来た

本当だね。今、何色と何色を
混ぜたの？【Wh質問】

え〜とね、あかとあお
そう！赤と青を混ぜたら紫色
になるね。【確認】不思議だ
ね【感情移入】

(30分後の片付けの時間)
Mちゃん、紫色は何色と何色
を混ぜたらできるんだった？
【Wh質問】

あかとあお(少し考えて
答える)
それから一週間の間、M子は自分から同じ活動を続け、
紫色の他、黄色と青色を混ぜて緑色を作ったり、赤と黄
色でオレンジ色を作るなど、色を混ぜることで出来る色
づくり活動を行った。

色を混ぜて偶然に出来た紫色に、感動して伝えるMに
保育者は「そうだね。きれいないうだね」と【感情移入】
し、さらに「どのようにして作ったの？」と【Wh質問】
で対応した。色を混ぜてできることは理解しているがど
の色を混ぜるかは分からなかったため、Mは「う〜んわ
からん」と答えた。このことは、Mが自ら思考を働かせ
ているとは考えられない。そこで、保育者が「もう一回
作ってみて」と【命令】したところ、Mは「うん」と答
え、すぐに行動に移し、一人ごとを言いながら試行錯誤
し、その後成功へとつながっている。このことは、保育者
が【命令】による対応をしたことで、子どもは試行錯誤
する機会を与えられ、より思考を《柔軟》にしているこ
とがわかる。また、その後も様々な色を使って活動し「
この色とこの色を混ぜるとこんな色ができるんだ」とい
ったかたちで緑色やオレンジ色を作っている。すなわち
保育者の【命令】によって、子どもに考える機会を与え、
思考を《柔軟》にすることに役立ったのである。

全体的考察

以上のことから、保育者の言語的応答性の【明瞭化】
により子どもは思考を《定着》させ、【解釈】により
《深化》させ、【命令】により《柔軟》へと移行させて
いることがわかる。さらに、子どもが本当に思考を《定
着》させ、《深化》させ、《柔軟》に移行させているか
を時間的経緯を追って検証してみたが、それらを移行さ
せていることがわかった。

言いかえれば、「応答的保育」で対応することによっ
て、子どもが自ら「思考」を働かせ、自ら考える力を伸
ばす、すなわち思考の育成を「移動概念」としてとらえ
ることができる。